

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社 ケアカンパニー		
事業所名	グループホーム ゆかい		
所在地	武雄市武雄町大字富岡12245番地6		
自己評価作成日	令和3年1月25日	評価結果市町村受理日	令和3年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・より良いサービス提供し、ご利用者、ご家族によかったなと安心・満足していただけるようにサービスの質の向上を考えています。サービス向上への具体的な考え方としてスタッフひとりひとりが仕事に対して自信を持ち、満足して仕事ができるように専門職としての知識、技術を身に付け、より研修の参加、施設内での勉強会の実施に努め、利用者様の心身の状態を把握し、体調変化の早期発見に努め医療機関への迅速な連絡体制がとれており、ドクターによる早期の対処が出来るようにマニュアルが決まっています全スタッフが理解している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは商業施設や住宅街のある国道沿いに位置し、屋内は心地よい自然光が差し込み、温もりを感じる造りとなっている。職員は入居者の笑顔や笑いを大切にし、入居者と誠実に向き合うよう日々努めている。入居者の衣服の綻びを職員が手直したり、食べやすいサイズに切った料理を作ったり、退去する入居者に撮り貯めた写真のアルバムを贈るなど、細やかな心配りにあふれており、入居者と職員とが共に過ごす時間を重視したケアに対し、家族からの信頼も厚い。また、水害や台風で一斉避難した経験があるため、災害緊急時の避難方法、連絡体制のノウハウがあり、職員の災害に対する危機管理意識も高いホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を明確にしてサービスの向上に朝の申し送りで理念をスタッフ共有で毎朝音読している	毎朝申し送り時に理念を音読するだけでなく、理念をどのように実践に結びつけ、入居者の自立支援や生活の質の向上に還元できるかを、日々職員間で話し合い、理念を振り返りながら業務を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出るときは地域の方とあいさつをしたり、運営推進会議を通して区長、民生委員、市職員をま交えて意見交換をする。	コロナ禍以前は、神社参拝や流鏝馬見学、太鼓や踊りの行事参加もあった。現在は、迷子になった近所の犬を見つけたり、近隣の保育園児と挨拶を交わしている。来年度は、流鏝馬の馬がホームに来ることを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で区長・民生委員の参加をもとに地域の意見交換をおこなって広報を施設に届くようにしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では区長、民生委員、市職員、ご家族の方、入居者様を交えておこなっている。	コロナ禍前は、区長や民生委員、市職員、多数の家族も参加し、和気あいあいの雰囲気の中で、地域情報の交換も行っていった。現在は対面での開催は控えており、書面での通知、開催も行われていない。	コロナ禍で対面での開催は自粛となったが、これまでホームが培った信頼と関係性を継続できるよう書面での通知、開催の検討に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に年6回地域包括の方に参加をしていただいで積極的に伝えていきます。	運営推進会議以外の時でも、地域包括支援センターからの連絡事項や地域資源情報、事業所の運営に関する相談事など、必要に応じて情報共有や協力体制を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをおこなっている入居者様のリズムにあわせ座ってばかりではなく居室にて休んでいたたりしている。玄関施錠を含めて身体拘束はしていない。	入居者の体調や要望に合わせて休息の時間を設けている。また、コロナ禍前は外部研修への参加や、職員が集まったの勉強会等、身体拘束について学ぶ機会があった。しかし、現在は感染予防の観点から、職員が集まって研修を行う機会を自粛している。	コロナ禍ではあるが、感染対策をしながら工夫を凝らし、身体拘束について勉強する機会の確保に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は月1回ミーティングをおこない、学ぶ機会を持ち、職員の間で虐待に当たらないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援についてはプラン作成により検討し、スタッフはプランに沿って支援している。成年後見制度については、利用者発生時、説明し対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時や改定の際は書面にて提示し、重要事項の説明を行い対応できる範囲を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して普段の行事病院受診の結果は面会時に伝えて出来ない時は電話などで伝えている。	毎月入居費を持参する家族に、面会を兼ねて入居者の状態や近況報告、家族からの要望を聞いている。また、面会できない時は電話で要望を聞き、入居者や家族の意向をできるだけ反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフでミーティングをおこない、代表者や管理者は運営に関わる意見を職員提案を聞く機会を設け、反映されている	毎月往診日の午後に話し合いを行い、意見交換や情報共有を行っている。また、管理者は日頃から相談しやすい雰囲気心がけ、職員の相談事を親身に聞いている。職員が、休みを取りやすいよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のトラブルや意見の食い違いなどの問題が発生したら、代表者が個々の面談を行い、問題解決している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などの情報提供をスタッフにして気軽に利用してもらっている。研修会で学んで自施設で活かしたい事など研修報告書に記録するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して機会を通して同業者と交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の時は、困っていること要望などに耳を傾けながら関係作りをよくしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する時、家族の悩み、利用されることの不安に耳を傾むけて勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する時は、本人様、ご家族様が希望されるサービス利用に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人様を介護される一方の立場におかず暮らしを楽しく、関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の方が来られた時、面会が厳しいが遠くてもいいので、お話をさせていただき努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様がお話しされる時に耳を傾け、大切にしてきた人や場所などを途切れないようにしている	コロナ禍前は、馴染みの人が度々来所し、花見や紫陽花見学、お墓参りや家族との食事も行っていた。現在は関係が途切れないよう、入居者が書いた年賀状を出したり、家族や馴染みの人に電話する等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションを通して歌、お手玉、しりとり遊びなど利用者同士が関わり合い、支え合えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に遊びに来てくださいなど 声掛けをおこなって車いすや歩行器なども寄付していただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の訴えや考え行動を熟知し利用者本人の希望であれば、その都度スタッフ同士話し合い可能な限りかなえられるようにしている	昼食後や入浴、夜間のゆっくりした時間に、入居者の要望や思いを聞き、職員間で情報共有し実践している。入居者の思い入れのある衣服を職員が手直ししたり、行ってみたい場所に連れて行ったりと、できる限り思いや意向の把握と実現に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族との面談を行い利用者様の生活歴、趣味など詳しく把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の1日の過ごし方、心身状態をその都度把握できるように努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、利用者個人担当が他のスタッフ全員の意見を取り入れ、より良く生活していただくために話し合いをしている	入居者のできること、やってみたいことなど、きめ細かい介護計画を作成し、日々実践している。また、担当者と計画作成者が主となって、適切にモニタリングと計画書の見直しを行い、担当者会議の記録も整備されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にケアの実践、結果、気づきを記録している。 毎日、申し送りを行って、連絡ノートやケース記録を確認し情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様ご本人が散歩に行きたいと要望があれば、スタッフ同士で話し合い、時間を作る。 現在はコロナウイルス流行のため外出はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回避難訓練又は区長、民生委員、市の職員とは情報の交換をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回定期往診をしており、密な関係が築けている。利用者様の状態の変化があったら、早期発見に努め、早急に医療機関へ報告して受診している	月2回の往診や専門医への付き添い受診など、入居者の状態に合わせ、適切な医療が受けられるよう支援に努めている。また、緊急連絡体制を整備し、入居者の急変にも対応できる運営がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が疑問に思った事などを話す、介護職に聞く。受診時には各個人の状態や病状がわかるように詳しく記録し、医師へ提示している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を医療機関に提示し、電話連絡を通し、情報を得ている。 退院後はサマリーなどを通して医師や看護職より助言を頂き、情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は訪問看護など早い段階からご本人、ご家族と話し合い事業所で出来ることを十分に説明する。	重度化した場合のホームでの対応について、入居時の他、必要に応じて適切な説明がなされている。看取りは行っていないが、家族に同意を得て24時間対応の協力病院や救急外来のある総合病院と連携し、速やかな対応に努めている。また、入居者が転院する際は、他病院の空き状況も確認し、入居者や家族の安心にも繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時は昼間はかかりつけ医院へ連絡し、夜間は緊急体制の流れで対処する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練の中で水害、台風など避難できる方法を取る。 実際に2回ほど避難をしている	年2回、火災避難訓練を行い、消防署の立会いや夜勤専従者の訓練参加も適切に行われている。また、過去に2回、実際に避難した経験があり、水や食料、薬、情報カード等の準備がなされている。しかし、地域の方々への避難時の協力要請はしているが、訓練参加には至っていない。	今後も、地域の方々への避難訓練の見学や参加をしてもらえるような、声かけや要請に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき日頃から心がけている	全職員が入居者への尊厳ある対応を心掛けている。入室する際はドアノックを実施し、排泄時には職員が立ち入らずコールを押してもらおう等、プライバシーにも配慮している。また、個人情報ファイルも、施錠のある保管棚で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望やお風呂、食べたい食事又はご家族様への電話などは、利用者様の意見を取り入れている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、毎日、ぬり絵、歌、ビンゴゲームなど、利用者様の希望に沿って支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、身だしなみ、洋服の汚れを見たり髪のをブラッシングしていただいたり顔にクリームを塗ったりして支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしておられるので、時には食べたいものをリクエストしてもらったり、職員と一緒に食事をしたりしている	毎食手作りで、愛着のある食器を使い、食材や品数も豊富である。また、入居者に食べたい物を聞いて、その日のおかずになることもある。誕生日には入居者の好物やケーキを作り、外出時にも手作りの弁当を持参する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取ができない方には、ラコールを引用していただく。水分量は一日を通して利用者様の希望に応じてお茶、牛乳、アップルジュースなどを支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れは、ハミガキが自分で行う方はしていただき、毎食後口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。入れ歯は、入れ歯洗浄液につけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、おむつを使用している方は2名ほどおられるが、その他の方は自立または介助にて3時間おきにトイレへ誘導をおこなっています	できるだけ自力での排泄が行えるよう支援し、排泄パターンを把握して、3時間置きのトイレ誘導や夜間のポータブルトイレの使用など、個々に合わせた対応に努めている。実際に、退院した入居者が、オムツから紙パンツになる等、排泄の自立度が上がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、飲食物の工夫、7歩行訓練、医師から助言をしてもらい予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば毎日でも入浴していただき皮膚疾患の方など状態を見ながら入浴回数を調節している	入居者の状態に合わせて手浴や足浴を取り入れながら、適切な入浴支援がなされている。また、浴室への誘導から衣服の着脱まで1人の職員が行い、ゆったりとした入浴時間を過ごせるよう心掛けている。1対1でゆっくりと過ごす入浴時は、入居者からの相談事を聞く機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの寝られる時間が異なるため状況に応じてお昼寝されたり、夜間は安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の名前と目的を書面ですぐに確認できるようにしている 新しい薬が処方されると申し送り情報を共有できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花の手入れや、新聞読み、本を読んだり、おしぼりを畳んだりと役割、スタッフとのお話、楽しみごと気分転換をしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節によってドライブまたは、天気の良い日は外庭にて日光浴などしてご本人の希望を把握し、ご家族と協力をしながら支援している	コロナ禍以前は、花見や紫陽花見学、神社への参拝、流鏝馬見学、ダム湖までのドライブ、スーパーへの買い物等、積極的に外出し家族と過ごす時間も設けていた。現在は、感染症対策の為、施設周辺の散歩や外気浴、ドライブ等を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が希望されれば家族の方と相談してお金を所持してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方へ入居者様の希望に応じてその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はTVの音量と温度、湿度の管理をして、お花を飾ったりして、居心地よく過ごせるように工夫している	共有空間には、小さな提灯やぼんぼり、行事の写真等が飾られ、アットホームな雰囲気となっている。また、換気や消毒、加湿器の設置、エアコン調整等、適切な感染症対策も行われている。職員も声かけや足音などに気を配り、共用空間が落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でもソファを置いて独りの居場所 気の合った利用者様同士でお話されたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の好きな物を置いたり 絵飾り物を置いて楽しんでいます	居室は暖かい光が差し込み、明るく清潔に保たれている。また、入居者の思い出の品や家具が置かれ、その人らしい部屋づくりが行われている。ベッドや家具の配置等にも配慮し、心地よく過ごせるよう入居者や家族と話し合いながら決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来ること 新聞たたみ、洗濯物畳みなど安全かつできるだけ自立していただいています		